

最新検査システム導入

前処理↓検体収納まで自動化

【愛知】豊田市にあるJA愛知厚生連の豊田厚生病院は、最新の検査システムの導入によって検査時間の短縮や、より正確な検査結果の報告が行えるようになった。大規模災害時の治療にも対応している。分析前の処理から血液や尿を検査する生化学測定、ウイルスやホルモンの値を検査する免疫検査、測定済み検体の冷蔵収納まで機械が自動で連続して行うもので、日本で初。処理能力が向上し、検査時間が導入前より約20分短縮した。

時間短縮、精度も向上

新しい検査システムは、入ったことで、約1時間から約20分短縮した。これまで約1時間かかっていた検査時間が、45分と約20分短縮した。装置内にカメラを備え、凝固した血液など検査できない検体を事前に発見し速やかに除去できる。このため、機器トラブルを未然に防げる他、早く再採血の依頼ができるため、検査結果の短縮につながる。試験を使っただけで最新の自動システムのため、検査品質の精度も向上した。

これらの時間短縮と精度の向上で、検査が効率化。従来、検査に当たっていた労力を新型コロナウイルス対策にも振り向けられるようになった。今年3月、一層の品質管理向上を求め、国際規格ISO15189を認定取得した。検体採取から検査結果の報告までの全ての流れを、国際的なマネジメントシステムの要求事項に従って行うことを証明するものだ。検査結果に対する国際的な信頼性が認められることになった。

同病院は「第一種感染症指定医療機関に指定され、地域の中核病院として最前線で新型コロナウイルスへの対応に当たっている。大規模災害時にもストップせずに安定した検査結果の報告が可能だ。地域中核災害拠点病



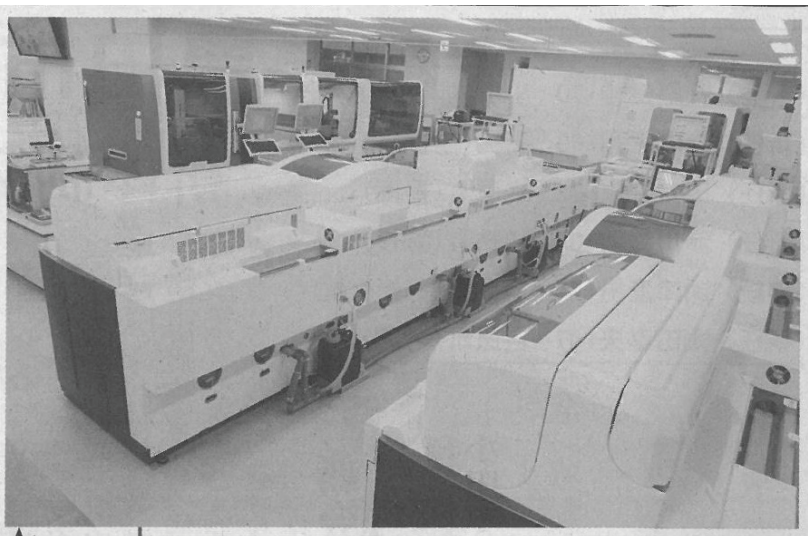
最新の検査システムを備えた豊田厚生病院（愛知県豊田市で）

日本農業新聞
[全国版]
令和2年9月7日発行

矢作新報
令和2年6月19日発行

当院「臨床検査室」の
取り組みが
新聞に掲載されました

今後も検査の品質向上に努め、地域の方に安心・安全な医療を提供できるよう努めてまいります。



豊田厚生病院の新検査システム。検査装置はトラブルに備えて2台導入している

国内初システムで 検査時間3割減に

ISO認定も取得

豊田厚生病院が昨年1月に新しい検査システムを導入し、検査時間がこれまでと比べて3割ほど短縮されている。このシ

豊田厚生病院

導入したのは検査設備が更新時期を迎えたことに加え、検査能力を向上させて業務を効率化するのが狙いだ。高精度カメラの付いた前処理装置は撮影した画像で検体をチェックできる。エラー検体は検査前に選別できるようにした。これまで別々に行っていた検体の成分検査や、ウイルス検出、ホルモ

装置で連続して行えるようになった。検査中に人手を介することなく、検査時間が約20分短縮し、40〜50分で行えるようになったという。検査時間が短縮されたことに加え、余裕ができた人員を他の業務の支援にまわせる環境も整った。検査装置を6台から2台に集約したことで、メンテナンス時間も減ったとすだ。また新システム導入に



伴い検査の精度も向上して薬の治験や学術論文などで使用することができるようになった。今年3月には臨床検査室の国際規格「ISO15189」も取得した。診療協同部長の中根生弥さんは、「災害拠点病院としての豊田厚生病院のブランド力の向上も狙い導入しました。地域の人たちに安心して来てもらえる病院を目指します」と話していた。

【吉田直樹】

